

第 1 回(仮称)三重県海岸保全基本計画検討委員会技術部会 議事要旨

日時:令和5年9月12日 15時～

場所:三重県勤労福祉会館

地下 1 階 特別会議室

【防護水準について】

主な意見は以下のとおり。

- 海岸別の天端高の決定根拠は、設計津波水位となるのか気候変動による高潮になるのかを整理した上で議論した方が良い。
- 現況の防護水準をベースに気候変動の影響のみを上乗せするのか、外力を見直した上で防護水準を上げるのかについては今後の検討結果を踏まえて議論した方が良い。
- 平成 11 年の海岸法改正により環境にも配慮する必要があることから、防護水準を高くすれば良いものでもない。防護水準をどうすべきかを決め、それに基づいて計算結果を反映するのが大事である。

【潮位の推算について】

主な意見は以下のとおり。

- 台風の抽出範囲について、過去の偏差が大きかった台風の経路を確認した上で網羅できるかどうかを確認した方が良い。
- 伊勢湾は、伊勢湾台風と昭和 28 年 13 号台風が対象に入っていれば良いと思うが、熊野灘では伊勢湾と違う台風が影響している可能性もあるので、確認した方が良い。
- 潮位の整理期間は、1986 年～2005 年のほか、2006 年からもあると思うが、別々で整理するというのか。

(事務局回答)1986 年～2005 年までの平均値が気候変動の影響を受けていない期間として整理した上で 2006 年以降の潮位を整理し海面上昇の影響を確認する。

- 黒潮蛇行や異常潮位はどのように取り扱うのか。

(事務局回答)黒潮の蛇行期間はわかっているので、潮位の上昇下降を整理した上で黒潮蛇行の影響を確認する。異常潮位についても確認する。

【波浪の推算について】

主な意見は以下のとおり。

- 伊勢湾内と熊野灘等の外洋に面した地域では波浪条件が大きく異なる。波浪の大きい熊野灘では、高波浪が発生した事例や波浪の特性による越波等への影響を調べることが重要である。また、波浪条件により潮位の推算における Wave setup の効果が変わることにより注意が必要である。
- 設計波を更新する時に d4PDF の過去実験と将来実験の倍率を掛けるとした場合、過去実験は 2010 年までということに注意をすべき。設計波を更新するときに 2011 年以降のデータを含んだ場合、気候変動の影響を二重にカウントする可能性がある。設計波の更新に際しては、2010 年までのデータと 2011 年以降を含んだデータによる違いがあるのかどうかについて確認した方がよい。

【気候変動の想定シナリオについて】

主な意見は以下のとおり。

- 2°C上昇シナリオを基本にすることで良い。
- 4°C上昇についてもいくつか検討して、どれぐらい違うのかということを経験として持つておくことが良い。
- 海面上昇量、平均海面の上昇量 39cm は通達されているのか。
(事務局回答)三重県としては海岸所管省庁からの参考資料の 39cm を採用したい。

以上